

要旨

定額給付金は家計消費にどのような影響を及ぼしたか

—「家計調査」の個票データを用いた分析—

(目的と概要)

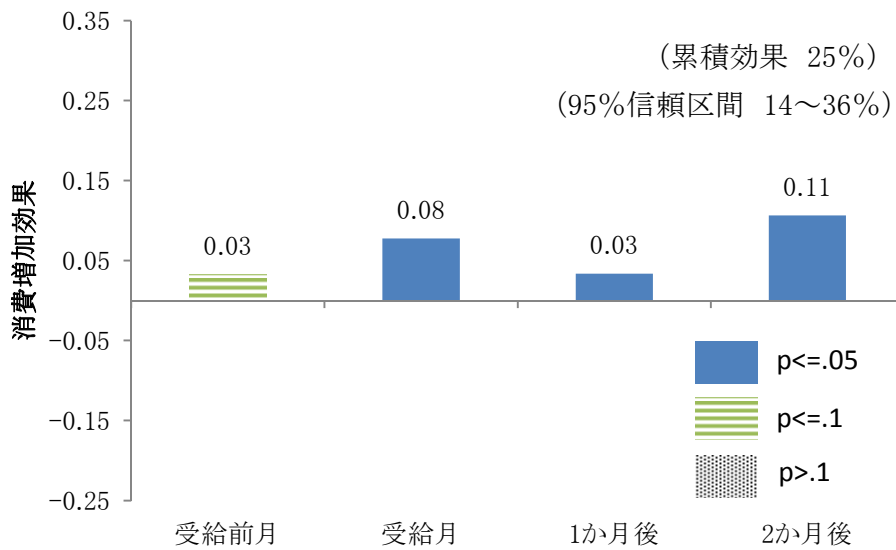
分析の目的：定額給付金の受給による家計の消費行動の変化を明らかにする。

分析の概要：個々の家計の消費支出に対して定額給付金をもたらす変化を消費増加効果¹とし、総務省「家計調査」の個票データにより重回帰モデルを用いてこれを推定した。

(消費支出を増加させた効果)

- 定額給付金によって、受給月に受給額の8%に相当する消費増加効果がみられた。他の月の分も合わせた累積²では、受給額の25%に相当する消費増加効果がみられた（図表1）。

図表1 定額給付金の消費増加効果



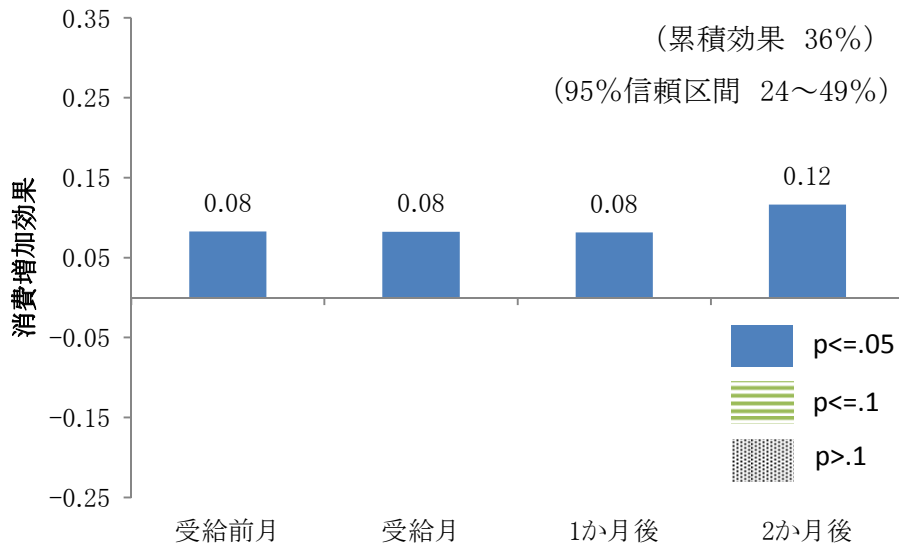
¹ 定額給付金がなかった場合と比較して消費が増加した金額。本レポートでは各世帯の定額給付金受給額に対する割合（%）として示した。

² 累積効果を算出するにあたっては、有意水準が10%以下のものを合計した。

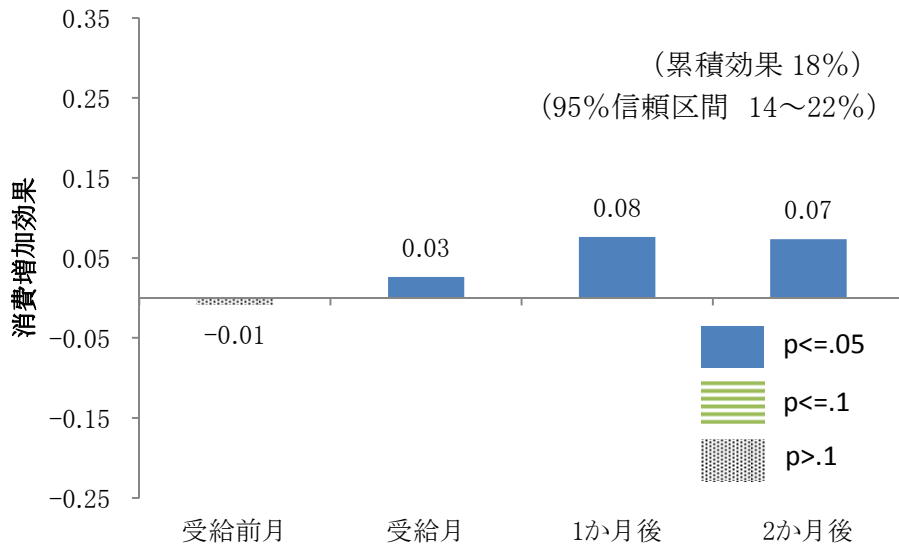
(個々の品目における消費増加効果)

- ・ 個々の品目についてみると、「耐久財」の消費については累積で36%の消費増加効果がみられた(図表2)。また、「旅行・行楽」の消費については、累積で18%の消費増加効果がみられた(図表3)。

図表2 「耐久財」における定額給付金の消費増加効果



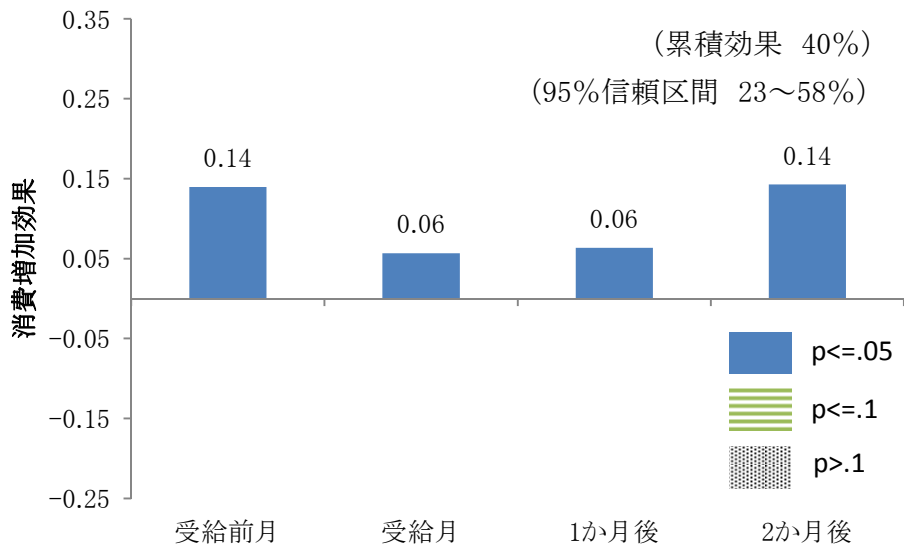
図表3 「旅行・行楽」における定額給付金の消費増加効果



(世帯属性別にみた消費増加効果)

- ・ 世帯属性を考慮すると、子どもがいる世帯では累積で 40%、高齢者がいる世帯では累積で 37%となり、全世帯をサンプルとした場合の 25%を上回る消費増加効果がみられた。

図表4 子どもがいる世帯における消費増加効果



図表5 高齢者世帯における消費増加効果

